

令和元年6月7日現在

機関番号：34507

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2018

課題番号：26463330

研究課題名（和文）成人アレルギーエドゥケーター養成に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental Study for Adult Allergy Educator training

研究代表者

山中 純瑚（JUNKO, Yamanaka）

甲南女子大学・看護リハビリテーション学部・教授

研究者番号：90300318

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：成人アレルギーエドゥケーターの養成を目指す上での課題としては、看護師の抱く小児期とは異なる看護ケア提供への困難感、そしてそこからくる気後れや熱意の希薄さが患者自身へ伝播している状況があげられた。看護師の看護ケアへの意識を高めるためには、今まで看過していた患者が体験してきた様々な障壁や思いを知り、よりよく患者を理解することからはじまる。そのことは看護師自身が認識の誤りに気付くことにつながり、エドゥケーターを目指す動機付けとなる可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国民病といわれるアレルギー疾患であるが、看護ケアについては未だ確立されているといえず、研究も遅々として進んでいない現状である。そのような中で、本研究は効果的な看護ケアを提供できる成人アレルギーエドゥケーターを養成するための第一歩として、教育的支援によって得られる患者、看護師のWin-Winの関係性を阻害している要因を双方向から検討した。今回得られた研究結果で、看護師、患者それぞれの側面からの課題が明確になり、患者の立場に立ったより効果的なケアシステム構築への重要な糸口となったことで、アレルギーケアへの関心を高め、今後のさらなる研究発展にも寄与するものと期待できる。

研究成果の概要（英文）：As problems related to adult allergy educator training, nurses had a sense of difficulty in providing nursing care for adults, which is different from that for children, and their consequent poor motivation and lack of enthusiasm were passed on to the patients. Clarifying patients' overlooked difficulties and emotions and understanding them more deeply are important for nurses to improve their attitudes toward nursing care. This may also help nurses themselves become aware of their points for improvement, and motivate them to become educators.

研究分野：臨床看護学

キーワード：アレルギーエドゥケーター 自己管理 成人喘息 患者教育

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

アレルギー疾患は、現在国民の2人に1人が罹患しているといわれており、「国民病」としても認知されている。またその患者数は年々増加の一途をたどっており、特に喘息やアレルギー性鼻炎の増加はその主体となり、大きな社会的問題にもなっている。アレルギー疾患については、効果的な対症療法はあるものの、完全な予防法や根治的な治療法の確立は未だなされておらず、患者の生活の質(Quality of Life: QOL)にも大きな影響を及ぼしている。その中でも喘息は代表的なアレルギー疾患であり、症状コントロールによっては生命にかかわる疾患であるが、治療の標準化は未だ十分に浸透しているとはいえず、同様に看護学分野においても教育的支援が症状コントロールに大きく影響する疾患であるにもかかわらず、看護ケアに関する研究は目だって少ない。喘息のコントロールには患者が主体的に実施する自己管理行動が重要な意味をもつが、その知識・技術は多岐にわたる。成人期であるがゆえに、自己管理行動に関連する因子は複雑であり、その要因を早期に探り支援することが重要である。そしてそのためには、専門的知識を有し、喘息ケアに積極的に取り組むことのできる看護師の存在が大きな意味をもつ。

医療現場においては、主たる教育者とされるのは医師であり、国の対策としても専門医師育成の促進を具体策として掲げている。しかし、実際には医師は時間的制約が多く、患者と接する時間の多い看護師が教育者として重要な役割を果たしている。小児アレルギーにおいては、2009年度に日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会が、アレルギー疾患専門コメディカル養成にむけて「小児アレルギーエデュケーター制度」を発足し、現在400名程度の認定者を輩出している。しかし、成人期においては、その管理は患者自身の自律性に委ねられている部分が多く、成人を対象とした専門的なアレルギーエデュケーターは存在しない。患者が安心・安全な生活を実現するためにも、患者教育に関わる看護師の育成は急務であるといえる。そして、アレルギー疾患患者に効果的な教育的支援を行うためには、患者側、看護者側双方向における課題を明確にし、アレルギーエデュケーター養成に向けて、段階的に検討をすすめていくことが重要であると考えられた。

### 2. 研究の目的

本研究の最終的な到達目標は、成人アレルギーエデュケーター養成プログラムを構築し、実施・評価することであるが、今回はその基礎的な研究として、(1)アレルギー疾患に罹患している患者側からの探索として、自己管理の実態と看護ケアや教育的に関わる看護者へのニーズを明らかにする。(2)看護者側の探索として、アレルギー疾患に対する看護ケアへの関心度、また患者の自己管理継続に向けて教育的に関わる看護ケアの必要性についての認識や思いを明らかにする。(3)アレルギーエデュケーターとしての看護師養成を行う上での課題を明確にすることを期間内に達成する目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究は、研究者所属機関および対象者の所属する施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した(所属機関:承認番号N16-24、研究実施施設:承認番号No790-1)。

#### (1)「喘息患者のセルフマネジメントの実態と看護ケアへのニーズ調査」

今回は代表的なアレルギー疾患であり、かつ成人期においては自己管理への支援に多くの課題を有している喘息患者を対象とした。大阪府下の病院に通院中の喘息患者で、自己管理について教育的指導を受けた経験のある成人期の患者を対象に、インタビューガイドに基づき半構造化面接を行った。インタビューの内容は、喘息の自己管理行動の現状と自己管理行動に対する思いや看護ケアへのニーズ等である。同意を得た上でICレコーダーに録音し、逐語録を作成した。今回はインタビューを行った11名の喘息患者のうち、喘息発作で入院経験のある6名を分析対象とし、文字データ化した上で、質的帰納的に分析を行った。

#### (2)「喘息ケアに対する看護師の認識調査」

大阪府下の施設に勤務する小児アレルギーエデュケーター9名に対して半構造化面接を行った。インタビューの内容は、アレルギー治療や看護ケアについての思いや課題、小児アレルギーエデュケーターの有資格者としての働き方の現実や理想についてであった。インタビュー内容について逐語録を作成した上で、アレルギーケアにおける思いと課題に関する部分を抽出した。研究者で協議の上でコードを作成し、質的帰納的に分析を行った。

### 4. 研究成果

#### (1)喘息患者が体験する喘息であるという状況と看護ケアへのニーズからみえた課題

喘息の自己管理について教育的支援を受け、かつ今回は喘息発作での入院経験のある患者を対象とした。自己管理行動を行いながらも発作という苦痛を体験している患者を対象とすることで、自己管理を行う上での困難な状況への体験や思い、また看護師へのニーズも明確になると考えた。

喘息患者の面接によって得られたデータを分析した結果、29のサブカテゴリーと14のカテゴリーが生成された。以下、サブカテゴリーを[ ]、カテゴリーを【 】で示す。14のカテゴリーは自己管理行動の実態とその認識、病とともに生きる体験と見出された医療の存在に分

けることができた。今回の面接では、看護ケアへの具体的なニーズとしては語られておらず、看護ケアを行う看護師の存在は、【他者に依存せず病に立ち向かう】や【喘息であるということへの周囲への気兼ね】【安心できるサポートの存在】へとその思いが包含されていた。

#### 自己管理行動の実態と認識

喘息患者の自己管理行動については【自己管理の重要性への認識】【複雑性からの逃避】【継続への強圧と困難感】【不確かなままの実行】【日常での行動のやりにくさ】【報われない行動への意気阻喪】の6つのカテゴリーで構成されていた。喘息患者は喘息教育や入院の経験から、喘息コントロールにおいて重要な薬物療法である[吸入手技の重要性の認識]や、あらためて[重要であると再認識する自己管理]を意識することで【自己管理の重要性への認識】を自覚していた。しかし自己管理行動に取り組んでいるにも関わらず病状の進行からくる[症状悪化の自覚]や[効果のない現実からくる鬱屈]を体験することで【報われない行動への意気阻喪】を感じていた。また【継続への強圧と困難感】【日常での行動のやりにくさ】を実感しており、このような自己管理を実行する上で体験する様々な困難な状況や伴う感情が、主体的に継続していく自己管理行動を阻害させる要因を作り出すとも予測された。今回カテゴリーとして抽出された【複雑性からの逃避】では、自分ではどうしてもできないという思いから[医師に委ねる]という行動をとっている現実や、[現実を直視しない]という患者の行動も明らかになった。これらの行動は知識不足からくる逃避行動と簡単に片づけられるものではなく、そうせざるを得ない患者の心情を看護師がより深く理解することが重要であり、このことが【不確かなままの実行】といった非効果的な自己管理の現状を改善する糸口になるのではないかと思われた。

#### 病とともに生きる体験と見出された医療の存在

喘息患者は『喘息である』という状況において、生活者としてさまざまな困難、かつ不安な体験や思いを抱きながら生きていた。そしてそれらは、【病によって制限される生活の質】【周囲の理解の無さからくる諦念】【先の見えない不安】といった体験やそこから生じる感情、また医療の存在への思いへとつながる【診断までの苦悩の日々】【症状改善への希求】【実感するサポート】、そして医療者にも向けられている【他者に依存せず病と立ち向かう】や【喘息であるということへの周囲への気兼ね】の8つのカテゴリーで構成されていた。患者らは喘息と診断を受け標準治療を受けるまでに、長い苦痛を伴う日々を体験しており、そのことが医師への不信感へとつながり、【先の見えない不安】となって表れていた。また、「自分のことだから看護師に頼っても仕方ない」というように[他者に依存しない]という思いと、[自身への叱咤]から【他者に依存せず病と立ち向かう】という強い思いを生み出していた。そしてそこには[医療者の無関心]や[周囲の理解の無さ]からくる【周囲の理解の無さからくる諦念】や、「看護師は忙しそうにしているし声をかけづらい」や「医師に関係ない話はしにくい」といったように医療者も含めた【喘息であるということへの周囲への気兼ね】が存在しており、喘息患者を孤立させているとも考えられた。このことは必要な支援の提供を阻むものであり、そのような医療者への複雑な思いを私たち看護師は看過せず、理解することが必要である。今回の調査では具体的な看護ケアへのニーズは抽出することができなかったが、このことは患者自身が看護師の行う『看護ケア』を明確に認識できていないことの表れであるともとれる。自己管理行動は患者自身の主体的な行動であるという看護師の捉え方が、看護師の介入の必要性を患者に認識させる障壁となっていると考えられ、看護師を教育的支援者として認知できるように関わることが重要である。

#### (2) 専門的に関わる看護師の看護ケアへの認識からみえた課題

小児アレルギーエドゥケーター9名に対して行った半構造化面接での分析の結果、33のサブカテゴリーおよび9のカテゴリーが生成された。

【患者の生活への長期的な関わり】【小児期から長く患者に関わる看護者の責任】からは、教育的に関わることを専門としているエドゥケーターだからこそ、患者の個別性を認識し、継続的な関係を意識して援助していることが伺えた。アトピー性皮膚炎については、複数のエドゥケーターが小児期での関わりがその後の症状緩和または増悪に影響してくることを実感していた。そのような実体験があるからこと、専門家としての小児期の関わりの重要性を十分に認識でき、責任の重さを感じることに繋がっていると考えられた。小児期では看護ケアによって、寛解に導くことも可能であることから、そのことが看護師自身の看護ケアへの熱意と強い動機付けとなっている可能性が示唆された。

【アレルギー疾患が軽視されている現実】では、専門外来が存在しないという事実が、アレルギーケアを軽視している医療現場の認識であると、専門的ケアを提供している看護師たちは捉えていた。命に直結しない慢性疾患であることが、医療者自身の関心の薄さに繋がっており、このことは同様に患者自身も意識していた。また、関心の薄さは医療者の知識不足へも連鎖しており、【知識不足を根底にした医療者側の問題点】として、施設によって異なる診断や説明、標準化治療に至らない治療法に翻弄される患者らをエドゥケーターらが憂う様子が伺えた。エドゥケーターとしての資格を得ることで、より専門的な看護ケアを提供することが可能となるはずが、【エドゥケーターの存在意義と拮抗する働き方へのジレンマ】にみえるように、エドゥケーターの資格を持ちながらも、アレルギーケアを継続できない職場環境を余儀なくされる現実から、専門的な力を発揮できないことへのジレンマを抱いていた。このことは単に専門的な

資格取得を目指すシステムの構築だけでなく、いかにその専門的知識とモチベーションを継続させる看護現場を整え、提供できるかまでを見通していくシステム上の課題を示唆するものであった。

【アレルギー看護の実践における現実的な問題点】としては、成人患者へのかかわりの難しさへの実感があつた。〔外来時の指導における困難の具体〕にもあるように、成人患者は仕事の合間や子育て、介護といった生活の中で、時間を捻出して通院にあてているため、外来時にゆっくりと患者の話を聴いたり指導を行う機会を作りにくい現状にあると看護師は捉えていた。一方患者自身も忙しそうにしている看護師に声をかけにくいと感じていることから、双方に気兼ねや遠慮といった気遣いや気後れが、教育的関りの実行を妨げていると考えられた。また、〔基礎教育への課題〕では、アレルギー疾患に対する看護ケアを基礎教育で教授することにより、看護師の関心を広げる可能性につながるという点も見出された。

【成人患者の様相と関わりの現実】では〔成人患者の行動変容の難しさ〕〔成人患者の苦悩〕にみられるように、専門的な知識と実践の経験をもつエドゥケーターであっても、成人期の患者に対しては教育的支援の難しさを実感しており、そのことは専門家としての患者指導への自信とモチベーションにも影響すると考えられた。患者の主体的、かつ適切な自己管理行動の実践には、医療者と患者のパートナーシップの確立が大きく寄与する（灰田, 2008）が、そこにはまず、看護師が患者自らが悩み考え、選択する療養への思いを知り、その上でありのままに受け入れることからはじまると考えられた。

### （3）アレルギーエドゥケーターとしての看護師養成を行う上での課題（図1）

アレルギーエドゥケーター養成を行う上では、まずはアレルギー疾患に対する看護ケアの重要性を、ケアを提供する看護師自身がしっかりと認識することが重要であるといえた。看護師の抱く小児期とは異なる看護ケア提供への困難感、そしてそこからくる気後れや熱意の低下が患者へ伝播している状況がみられ、そのことが患者自身が教育支援者としての看護師の存在を被覆させる結果になっていると推測された。効果的な看護ケアは専門的知識や技術の習得のみで達成されるのではなく、患者の療養への思いを看護師が理解し、その上で患者の思いをありのままに受け入れることからはじまるといえる。患者の思いを細やかに『知る』ことは、患者をよりよく理解することにつながり、成人期の患者の教育的支援は効果が期待できず困難であるという先入観を払拭し、看護師自身の認識の誤りに気付くことを可能にすると考えられた。そしてそのことがエドゥケーターを目指す動機付けとなる可能性も示唆された。また看護基礎教育の現場において、アレルギーケアの重要性を教授することで、希薄な看護ケアへの関心を変化させる可能性も期待できる。エドゥケーター養成へむけたシステムを構築する場合は、専門的な知識、技術を継続して発揮できる職場環境、看護現場の整備が必要であり、そのことが看護師のエドゥケーターとしての自信の形成につながると推測された。

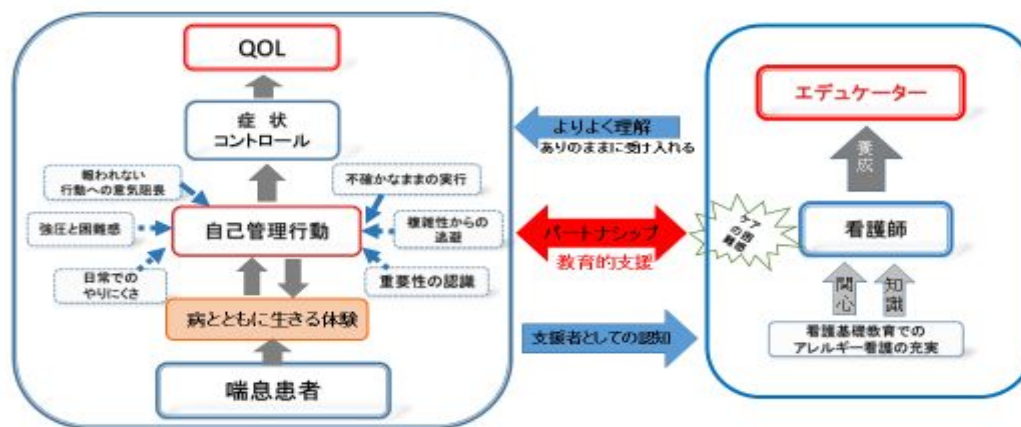


図1 エドゥケーター養成のための課題

### 引用文献

灰田美知子. (2008). アドヒアランス向上のために必要な患者とのパートナーシップ構築. 薬局, 59(6), 2323-2329.

### 5. 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 3)件)

山中純瑚, 池田七衣, 岡田知子, 羽澤三恵子: 専門的臨床経験を有する看護師のアレルギーケアに抱く思いの様相, 第 12 回日本慢性看護学会学術集会, 2018 年 5 月 15 日 TKP ガーデンシティ品川 (東京都品川区)

Junko Yamanaka, Nanae Ikeda, Chiko Okada, Emiko Hazawa: Effects of about asthma on self-management, 21st East Asian Forum of Nursing Scholars, 2018, 01, 12, Lotte Hotel (Seoul, South Korea)

山中純瑚, 池田七衣: 小児アレルギーエドゥケーターの抱くアレルギーケアへの思いと課題, 第 37 回日本看護科学学会学術集会, 2017 年 12 月 15 日, 仙台国際会議場 (宮城県仙台市)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 池田七衣

ローマ字氏名: Nanae Ikeda

所属研究機関名: 武庫川女子大学

部局名: 看護学部

職名: 准教授

研究者番号 (8 桁): 80584549

### (2) 研究協力者

なし